

# 高幡地域アクションプランの 進捗状況確認資料

高 幡 地 域 本 部  
令和8年1月29日（木）

## 高幡地域アクションプランの進捗状況確認資料

R8. 1. 29

高幡地域本部

### 1 地域アクションプランの令和7年度の実施状況及び令和8年度の展開(総括)

#### (1) 総評

令和7年度は、全24項目のアクションプランごとに実行支援チームを編成し、市町や事業者と事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、各種支援制度等を活用しながらそれぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めている。

当地域の一次産業分野では、安定的な生産や販売拡大に取り組むとともに、地域資源を活用した加工品開発を進めている。また、観光分野では、「どっぷり高知旅キャンペーン」と連携した地域資源の磨き上げや旅行商品の造成に取り組むなど、地域産業の振興や交流人口の拡大を図っている。

引き続き、事業者の取り組みに対応した支援策を講じながら、地域経済の活性化に向けて取り組んでいく。

#### 農業分野

農業分野では、栗の栽培面積の拡大により生産量の増加を図るとともに、加工品開発や販路開拓の取り組みを進めている。

畜産業では、新たな豚舎が整備され、「四万十ポーク」の安定的な生産が可能となった。また、キジ肉では、生産羽数の安定化に取り組むとともに、継続的な営業活動により、新たな販路開拓につながっている。

令和8年度は、引き続き生産の安定化に向けた支援を行うとともに、地産外商公社など関係機関と連携し、継続的な取引につなげるための商談会出展や営業活動を積極的に行い、販路の開拓や拡大を進めていく。また、四万十川流域の栗や芋については、ブランド力を活かした地域の活性化に向けて、新店舗の売上げ向上を目指していく。

#### 林業分野

梶原町では、林業人材の確保に向けて、移住フェアでのPRやインターンシップの受け入れ等に取り組み、3名の雇用につながった。

また、再生可能エネルギーの地消地産に向けて、木質バイオマス発電施設や木質ペレット工場の整備が進んでいる。

令和8年度は、木質バイオマス発電施設の稼働に備えて、引き続き林業人材の確保や伐採後の再造林などに取り組むことで、地域経済の好循環の実現を目指していく。併せて、環境先進企業や高校生などと協働の森づくりを進めていく。

### 水産業分野

須崎市産の養殖マダイ等については、新商品を開発するとともに、量販店を中心に取引が拡大しており、売上げの向上につながっている。

また、梶原町のアメゴについては、デジタル技術を活用した効率的な生産に取り組むとともに販路開拓を推進している。

令和8年度は、養殖マダイにおいて、他産地との差別化を図るため、ユズ残渣を活用した飼料の活用について検討を進めるとともに、既存の流通ルートを活用した販売拡大に取り組んでいく。アメゴ養殖では、水カビ病対策を講じながら安定的な生産を進め、商談会への出展や営業活動により販路開拓を進めていく。

### 商工業分野

中土佐町のカツオ、津野茶や梶原町の桜、ブドウなど地域の食材を使った新商品や、道の駅のオリジナル商品の開発が進んでいる。

また、ECサイトの活用や商談会等への積極的な出展を通じた販路開拓・拡大に取り組んでいる。

令和8年度は、引き続き地域資源を活用したオリジナル商品の開発を進めるとともに、県内外の商談会や催事への参加、関係機関と連携した販路の開拓や拡大に取り組んでいく。併せて、産業振興アドバイザーを活用し、SNS等による情報発信の強化にも取り組む。

### 観光分野

一般社団法人奥四万十高知を中心に、市町村や関係団体、事業者等と連携し、奥四万十エリアを巡るツアーの造成やスタンプラリー、SNS等を活用した情報発信、県外の旅行会社への誘致セールスなど、誘客促進や奥四万十の魅力の発信を強化しており、主要な観光施設の多くは入込み数が前年を上回っている。

令和8年度は、須崎市で整備が進んでいる「まちまるごとホテル」や中四国で最も規模の大きいスケートパーク場が稼働する予定であり、新たに多くの誘客が見込まれる。これらを核とした高幡地域の周遊促進を進めるため、SNSを活用した情報発信など、交流人口や経済波及効果の拡大に向けて取り組みを進めていく。

# [重点] APNo.2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化

<高幡地域本部>

分野/実施地域	農業 / 四万十町
実施主体	◎(株)四万十ドラマ
APへの位置付け	H22.4月



指標	出発点 (R4)	第5期(R6~R9)					評価※ (達成率)
		R6実績	R7実績 (4月~11月)	R7目標	R8目標	R9目標	
栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t	18.1t	47.3t	29t	29t	30t	<b>S</b> (163.1%)
芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t	43.5t	40t (~12月見込)	60t	65t	70t	<b>D</b> (66.7%)
(株)四万十ドラマ 新規雇用者数	-	2人	4人	5人	9人	10人 (R6~R9累計)	<b>C</b> (80.0%)
(株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4億円	3.8億円	3.2億円	4.5億円	4.8億円	5億円	<b>A</b> (106.7%)

※R7(目標)に対するR7(実績)の達成見込み **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

## 事業概要

四万十川流域の資源を活かして地域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。

主なスケジュール	R7	R8	R9
生産の強化	農業法人との連携による栽培拡大		
		保管庫等の導入検討	
加工流通・販売拡大	生産体制の拡大・検討		施設整備
	地域商社機能の再構築	地域の農作物の集約及び販売強化	

## 現状と課題

### 【現状】

- ・R6年に(株)四万十ドラマの農業部門を立ち上げ、地域の生産者と連携しながら栗や芋の栽培に取り組んでいる。
- ・R7年の新店舗オープンにより、関西圏でのPRがより進み始めた。
- ・地域の農作物(ゆず・米)の集約及び販売を実施し、地域商社としての機能を再構築した。

### 【課題】

- ・農作物の保管庫の不足
- ・地域商社の機能強化が必要
- ・店舗運営及び加工品の管理体制の強化が必要



## R8年度(第5期ver.3)における取り組みの内容

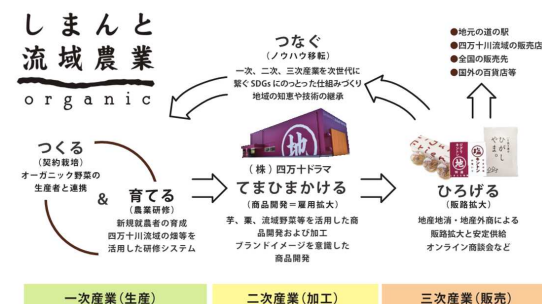
### (1)生産量の増大

- ・しまんと流域農業organicプロジェクトの推進  
地域の農業法人および生産者と連携した栗・芋等の栽培拡大 (しまんと地栗協議会・四万十の芋プロジェクト協議会)

### 拡 農作物の保管庫等の導入を検討

### (2)施設機械整備とブランド化

- ・生産拡大に向けた施設整備の検討 (貯蔵庫、冷凍庫、農作物流通センター等)
- ・地域商社機能を生かし、農作物の集約・販売による地域のPRを強化
- ・PDCAサイクルによる新店舗の売上向上
- ・地域資源を活用した新商品の開発



# [重点] APNo.16 須崎市海のまちプロジェクト

<高幡地域本部>

分野/実施地域	観光 / 須崎市
実施主体	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会、(一社)須崎海のまち公社
APへの位置付け	R3.9月

第5期(R6~R9)							評価※ (達成率)
指標	出発点 (R4)	R6実績	R7実績 (4月~11月)	R7目標	R8目標	R9目標	
主要施設等の入込数	28,089人	73,248人	39,932人	42,000人	46,000人	53,000人	<b>S</b> (142.6%)

※R7(目標)に対するR7(実績)の達成見込み **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満  
【入込数】 → 須崎大漁堂、須崎のサカナ本舗、観光漁業センター、すさまちかどギャラリー、エリア内における関連イベント

## 事業概要

須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。

主なスケジュール	R7	R8	R9
まちまるごとホテル整備事業	設計	整備	主要3拠点オープン 【宿泊施設【2箇所】、入浴施設】
	大型バス駐車場、宿泊施設等の掘り起こし	設計、整備	団体観光客受入 ツアー造成

## 現状と課題

### 【現状】

- ・須崎大漁堂、須崎のサカナ本舗のオープンをはじめ主要施設が増加したことで入込数は年々増加している。
- ・エリア内にとどまらず、浦ノ内マリパーク(ロゴスパーク)の完成や、商店街と連携したイベント等、さまざまな連携・協力によるイベントを開催してきた。
- ・人通りのなかったところに、人の流れができて地域住民も認知し始めており、新たな人の流れが創出できている。

### 【課題】

- ・周遊促進に向けた宿泊施設、駐車場等の不足
- ・市内周遊はもとより、高幡地域の玄関口として周辺地域への周遊促進施策の充実が必要

## R8年度(第5期ver.3)における取り組みの内容

### (1)海のまち創り・リノベーション

- ①海のまちのブランディング
  - 拡・商店街エリアを中心とした魅力度向上に向けた情報発信強化(宿泊を軸とした、周遊プラン等の情報発信)
- ②まちまるごとホテル整備事業の推進
  - 海のまち須崎駅をエントランス、須崎大漁堂をフロントとしエリア全体を宿泊施設に見立た取り組み
  - ・主要拠点となる宿泊施設(2箇所)及び入浴施設の整備(秋頃完成)
  - ・大型バス用駐車場整備



### (2)海のまちの魅力の向上・再発見

- ①観光クラスター整備事業の推進
  - ・海のまちエリアにある施設を活用したイベントの開催
- ②釣りバカシティブロジェクトの推進
  - ・定期的なワークショップ・イベント及び地域の子供たちに向けた普及活動の実施
  - ・公式HPやSNSを活用した積極的な情報発信
  - 新・持続可能な釣場の環境整備に向けた啓発活動(清掃活動、ワークショップ等)



### (3)エリア外との連携促進

- ①市内、高幡エリアへの周遊促進
  - 拡・奥四万十高知と連携した須崎市を宿泊拠点とする周遊プランの企画造成

分野/実施地域	観光 / 須崎市
実施主体	須崎市
APへの位置付け	R6.4月

第5期(R6~R9)							評価※ (達成率)
指標	出発点	R6実績	R7実績	R7目標	R8目標	R9目標	
主要施設等の入込数	-	-	-	-	26,000人	28,000人	-

※R7(目標)に対するR7(実績)の達成見込み S:110%以上 A:100%以上110%未満 B:85%以上100%未満 C:70%以上85%未満 D:70%未満  
 ※R8年度オープンのため、R8目標からの記載

## 事業概要

魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。

主なスケジュール	R7	R8	R9
施設整備	施設整備		
誘客方法の検討 (大会の実施等)	オリンピックの招聘・ オープニングイベント準備	体験教室、スクールの実施 オープニングイベント ローカル大会等の開催	キッズ向け大会 全国規模の大会誘致

## 現状と課題

### 【現状】

- ・地元高校生を中心とした「須崎市のスケートボードパークをつくる会」からの要望をきっかけに、R4.10月に整備に係る基本構想を策定した。
- ・令和8年度のオープンを目指して、施設整備を行っている。

- ・国内有数の施設規模
- ・テラスや周りに遊歩道を設置することで、愛好者以外の方も利用しやすい施設設計
- ・巨大な屋根を設置し、屋外の施設でありながら雨天時も一部利用可能

### 【課題】

- ・円滑な運営が行える体制を整える必要がある。
- ・愛好家だけでなく、子どもを含むファミリー層等幅広い層へスポーツに親しむ機会を提供するなど、誘客に取り組む必要がある。

## R8年度(第5期ver.3)における取り組みの内容

### (1)魅力ある施設の整備に向けた協議等

- ①魅力のある施設を生かす運営体制の構築
- 新・指定管理者の選定
- 新・地域おこし協力隊制度等を活用した人材の確保
- 新・運営協議会を設立し、誘客につながる運営を実施

### (2)ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討

- ①施設機能の検討・提供
- 新・レンタル事業の展開や体験教室・スクールの実施
- ②全国規模等の大会開催及び誘致
- 新・トップアスリートやオリンピックの招聘
- 新・オープニングイベント及びローカル大会の開催
- 新・キッズ向け大会の誘致に向けた調整

### (3)効果的なプロモーションの検討

- ・SNSやデジタルサイネージを活用した情報発信
- ・アートや音楽と連動したイベントの検討・実施



(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		
農業	1	<p><b>梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト</b> (梶原町)</p> <p>【実施主体】 ・〇(株)四万川 ・梶原町</p> <p>梶原町で生産されているキジ肉の加工品について、安定的な生産体制を確保するとともに町内飲食店での消費の向上を図るとともに、梶原町の特産品として県内外の飲食店や個人への販売拡大、他産地と連携した高知県産キジ肉としての認知度向上の取り組みを行う。</p>	販売額				<p><b>1 生産体制の確立と生産羽数の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規生産者の育成【通年】</li> <li>HACCPに沿った衛生管理【通年】</li> <li>ふ化率向上のため他産地と連携した生産体制の強化【通年】</li> <li>デジタル技術、設備の導入等による生産羽数の増加(鶏舎の温度・湿度管理、ふ化器等)【通年】</li> <li>家畜保健衛生所からの指導に基づいた感染症対策【通年】</li> </ul> <p><b>2 販路の開拓・拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外飲食店との取引強化に向けた、地産外商公社と連携した営業活動(ブランディング再検討)【通年】</li> </ul> <p><b>3 キジ肉消費向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛媛県北町、いの町本川地区との連携の検討【通年】</li> <li>イベントへの積極的な出店【通年】</li> <li>「第6回土佐のまじ祭り」の開催【R8.3月】</li> </ul>	<p><b>1 生産体制の確立と生産羽数の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産試験場及び西部家畜保健衛生所による生産者への技術指導(7/24)</li> <li>作業道具の共同開発、飼料に関する情報交換等について、愛媛県北町、いの町本川地区と連携</li> <li>飼糧代高騰への対策 →町内産の飼料米及びワイン用ぶどうの搾汁残渣を飼料に混ぜて給餌</li> <li>ふ化器の更新(3月予定) (梶原町地場産品販路・生産拡大支援事業費補助金)</li> <li>ひな飼育スペースの改善(5月～)</li> </ul> <p><b>2 販路の開拓・拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地産外商公社と連携し、産地見学及び試食会の受入れ：8回 →県外8事業者と商談</li> <li>地産外商公社の紹介による商談会等への出展：3回 →県外3事業者と商談</li> <li>名古屋事務所との連携 →飲食店(名古屋市所在の高級割烹料理店)の産地見学の受入れ(7月)、商談会への出展(11月)</li> </ul> <p><b>3 キジ肉消費向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内外イベントへの出店：7回</li> </ul>	<p>1,177万円 (R7.4月～11月)</p> <p>・R7到達目標達成率：74.6% ・対前年同期比：168.0%</p> <p>※例年では秋～冬(10月～2月)の売上が年間売上の70～75%を占めているため、現状から年度未までの見込み</p>	B	<p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販路拡大に積極的に取り組んだ結果、販売額が対前年同期比で約1.7倍となっており、継続的な受注につながっている。</li> <li>ひな飼育スペースの改善による死亡率の低減(R6.10月：死亡率28.1% → R7.10月：死亡率18.0%)</li> <li>県外11事業者と商談が成立した(顧客の要望には細やかに対応している)。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふ化率の低下 (R6年度：ふ化率73.1% → R7年度：ふ化率64.0%)</li> <li>飼料代等の高騰分に係る価格転嫁対応が不足</li> <li>継続的な取引に向けた営業活動</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産試験場及び西部家畜保健衛生所との情報共有を継続</li> <li>種キジの飼育密度の低減と集卵のタイミングの見直しを検討・実証</li> <li>R7年度内の価格見直しを検討</li> <li>地産外商公社や名古屋事務所等と連携した営業活動、産地見学・試食会の受入れ及びイベント出店を継続</li> </ul>	<p><b>1 生産体制の確立と生産羽数の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふ化率・育成率向上のため他産地と連携した生産体制の強化【通年】</li> <li>デジタル技術、設備の導入等による生産羽数の維持(鶏舎の温度・湿度管理、ふ化器等)【通年】</li> <li>家畜保健衛生所からの指導に基づいた感染症対策【通年】</li> </ul> <p><b>2 販路の開拓・拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外飲食店との取引強化に向けた営業活動(地産外商公社等と連携)【通年】</li> <li>価格の見直し</li> <li>新商品開発の検討【通年】</li> </ul> <p><b>3 キジ肉消費向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛媛県北町、いの町本川地区との連携の検討【通年】</li> <li>イベントへの積極的な出店【通年】</li> <li>「第6回土佐のまじ祭り」の開催【R9.3月】</li> </ul>	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】			R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】			
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標			R9目標	現時点の進捗状況					
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析	R8計画	
農業	2	<b>四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化</b> (四万十町)  【実施主体】 ・◎(株)四万十ドラマ  四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。	JA栗集荷量 (大正、十和、西土佐)  26.6t (R4)	18.1t	29t	30t	<b>1 生産量の増大</b> ・しまんと流域農業organicプロジェクトの推進【通年】 (地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大) ・しまんと地栗植樹プロジェクトの推進【通年】 (農業部門による栽培管理)	<b>1 生産量の増大</b> ・(株)四万十ドラマと(株)しまんと流域野菜の連携による栗の新植 ・「四万十の芋プロジェクト協議会」研修会(4月)、総会(6月)、目標らし会(10月)の実施 ・「しまんと地栗協議会」の発足、総会(8月)の実施 →新規雇用：農業部門1人(R7.6月～) 新店舗1人(R7.9月～) ・農業部門へふるさとワーキングホリデーの受け入れ(12月:1名)	47.3t (R7.4月～10月)  ・R7到達目標達成率： 163.1% ・対前年同期比：261.3%	S	<b>(成果)</b> ・しまんと地栗協議会の発足により、地域の生産者との連携体制がより強化された。  【雇用創出数】2人(R7.11月末時点)  <b>(課題)</b> ・農業部門の栽培拡大等に対する機械、設備の不足 (草刈り機、保管庫等)	<b>1 生産量の増大</b> ・しまんと流域農業organicプロジェクトの推進【通年】 (地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大) ・農作物の保管庫等の導入検討【通年】 ・地域おこし協力隊の受け入れ(農業部門:1名)		
			芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)  44t (R4)	43.5t	60t	70t			40t (R7.4月～12月見込)  ・R7到達目標達成率：66.7% ・対前年同期比：92.0%				D	<b>(今後の方向性)</b> ・農業部門の栽培拡大等に対する機械、設備の導入を検討 ・地域おこし協力隊の受け入れ(農業部門:1名)
			(株)四万十ドラマ新規雇用者数  -	2人	5人 (R6～7累計)	10人 (R6～9累計)			4人 (R6.4月～R7.11月)  ・R7到達目標達成率：80.0% ・対前年同期比：-				C	<b>(成果)</b> ・今年度開校した「しまんと分校」では関係人口の拡大を図ることができた。 ・新店舗での売上は計画を超える水準で推移している。 ・ECサイトの売上は前年対比100%を超えて好調となっている。  【雇用創出数】2人(R7.11月末時点)【再掲】
(株)四万十ドラマ加工品販売額  3.4億円 (R4)	3.8億円	4.5億円	5億円	3.2億円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率： 106.7% ・対前年同期比：110.7%	A	<b>(課題)</b> ・地域商社の機能強化 ・新店舗の運営体制の強化								

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
農業	3	<b>四万十町畑作振興プロジェクト</b> (四万十町)  【実施主体】 ・◎四万十野菜(同) ・(株)ハマヤ  有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。	四万十野菜(同)売上高 1.28億円 (R5)	1.33億円	1.32億円	1.36億円	<b>1 農業者連携の拡大・強化</b> ・栽培技術現地検討会(圃場クリニック)・勉強会の実施【2回(6月、9月)】 ・新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ【通年】 ・有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践【通年】  ・有機米の栽培面積の拡大(70~80a)【4月】  ・有機米専用施設・機械導入の検討【通年】 ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討【通年】	<b>1 農業者連携の拡大・強化</b> ・有機水稲・ショウガの現地検討会を開催(7月) →6名参加(うち新規就農者1名、その他は管内生産者等) ・有機栽培希望者を1名雇用(R6.7月~)、社内の農作業を通じて栽培方法を指導 ・有機栽培農家4名のほか、町内外のこだわり野菜生産農家23名の農産物を出荷 ・土づくりや連作回避を目的として、ショウガ栽培の前作には、有機水稲あるいは緑肥(※)栽培を実施(※土壌を改良し、肥料成分を補充するための植物) ・令和7年度は有機水稲70aを作付けしており、次年度は140aに拡大を検討 ・有機水稲の栽培面積拡大に伴って、次年度の設備・機械導入を検討中 ・阪急百貨店プレミアムカタログに有機米のセットが採用 ・新規取引先へ特別栽培米の卸を開始 ・有機米の輸出を目指して、商談会等に参加：3回(8/20・21、9/25・26、11/20) ・有機農産物の販路・販売量拡大のため、取引先(新規含む)と商談：1件 →台湾への輸出(1~2月予定)準備中	1.11億円 (R7.4月~11月)  ・R7到達目標達成率： 126.1% ・対前年同期比：120.7%	S	<b>(成果)</b> ・有機米セット販売や特別栽培米の卸し販売等の新規の販売が拡大した。  <b>(課題)</b> ・現在の機械・設備では有機水稲の面積拡大が困難 ・加工品の特性に合わせた新規取引先の獲得が必要  <b>(今後の方向性)</b> ・有機水稲の生産・販売拡大にかかる機械・設備を整備(自己資金及びうち農業確立総合支援事業の活用を検討) ・商談会等で知合ったメーカーや、県内ホテル等への営業活動を実施	<b>1 農業者連携の拡大・強化</b> ・栽培技術現地検討会(圃場クリニック)・勉強会の実施【2回(6月、9月)】 ・新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ【通年】 ・有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践【通年】 ・有機米の栽培面積の拡大(200a)【5月】 ・有機米専用施設・機械導入の検討【通年】 ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討【通年】 ・有機米の輸出【通年】
			四万十野菜(同)加工品売上高 79千円 (R5)	580千円	800千円	1,095千円	<b>2 6次産業化の推進</b> ・商談会等への参加による販売拡大【通年】  ・輸出を視野に入れた体制整備【通年】  ・マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ【通年】	<b>2 6次産業化の推進</b> ・加工品(ショウガ加工品、TOSA七味)のAgriFoodエキスボ等での宣伝・売り込みを強化 →TOSA七味の県内継続取引中。販売強化を目指して商標取得を準備中 ・ふるさと納税返礼品への参入(有機米、TOSA七味) ・ショウガ商品のブラッシュアップ(ショウガコンフィチュール、ショウガチップス2種) ・有機米を使った味噌づくりを検討	270千円 (R7.4月~11月)  ・R7到達目標達成率： 50.6% ・対前年同期比：62.2%			

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		
農業	4	<b>四万十ポークのブランド化の推進</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ・◎四万十ポークブランド推進協議会 ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・(株)山中畜産 ・(農)四国デュロックファーム  安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。	四万十ポーク 売上高  10.4億円 (R4)	13.6億円	13.8億円	15.2億円	<b>1 ブランド化の推進</b> ・イベント参加やPRキャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上【通年】 ・地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理【通年】  <b>2 商品開発と販路開拓</b> ・新商品の開発や催事・商談会等への参加による販路拡大【通年】  <b>3 生産基盤の強化</b> ・畜産防疫の最新情報の把握及び疾病の発生状況に応じた防疫体制の見直し【通年】 ・(株)山中畜産の施設整備に伴う生産の強化【通年】 ・(有)渡辺畜産の環境整備【通年】	<b>1 ブランド化の推進</b> ・チラシやのぼり旗の配布、ポロシャツの販売によるPR ・さんしんGOによる四万十ポークのPR実施(6/15) ・とさのさとの販促イベント(9/27) ・四万十ポークブランド推進協議会幹事会:5回(5/14、6/19、9/12、10/28、12/3) ・四万十ポークブランド推進協議会総会(5/23) ・米こめフェスタ(町内イベント)でのPR、アンケートの実施  <b>2 商品開発と販路開拓</b> ・新商品の販売開始:1点(ポークジャーキー) →店頭及び近隣道の駅や関東圏スーパーでの販売開始(6月) ・商談会へ参加(9/25)  <b>3 生産基盤の強化</b> ・飼養衛生管理及び疾病対策の改善、各農場に応じた対処計画の作成 ・(株)山中畜産の施設整備(産振補助金(特別承認事業)、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業補助金(国)を活用) ・(有)渡辺畜産の堆肥化処理施設整備(こうち農業確立総合支援事業費補助金(県)を活用)	9.48億円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率:103.0% ・対前年同期比:104.9%	<b>A</b>	<b>(成果)</b> ・産振補助金(特別承認事業)と国の補助金を活用した(株)山中畜産の豚舎が完成し、8月と9月に種豚を導入し、効率的な管理が実施できている。 ・出荷頭数の増加(対前年同期比103.8%)および枝肉相場の上昇により、売上が伸びている(対前年同期比112.3%)。 ・イベントでのアンケート結果より、四万十ポークの認知度が向上している(昨年84%→今年91%)  <b>(課題)</b> ・伝染性疾病の低減が必要 ・四万十ポークの認知度のさらなる向上が必要  <b>(今後の方向性)</b> ・疾病に応じた飼養衛生管理の再確認 ・衛生環境の整備による事故率の抑制及び生産頭数の増加 ・販促資材やイベント出店によるPRの継続 ・食育活動によるPR	<b>1 ブランド化の推進</b> ・イベント参加やPRキャンペーン、食育活動等による四万十ポークの認知度の向上【通年】  <b>2 商品開発と販路開拓</b> ・新商品の開発や催事・商談会等への参加による販路拡大【通年】  <b>3 生産基盤の強化</b> ・畜産防疫の最新情報の把握及び疾病の発生状況に応じた防疫体制の見直し【通年】 ・整備に向けた検討【通年】	
			年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]  25,332頭 [1,783頭] (R4)	28,082頭 [568頭]	35,236頭 [1,880頭] ※畜舎整備の関係により山中畜産の今年度出荷は0頭	38,696頭 [4,514頭]		18,756頭 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率:79.8% ・対前年同期比:105.3%	<b>C</b>				
			四万十ポーク取扱店舗数  2軒 (R4)	34軒	30軒	40軒 (R6～9累計)		42軒 (R6.4月～R7.11月)  ・R7到達目標達成率:140.0% ・対前年同期比:-	<b>S</b>				

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】			R8計画																					
		項目名・実施主体	指標 出发点	R6実績	R7 到達目標			R9目標	現時点の進捗状況																							
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析																				
林業	5	<b>栲原100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～</b> (栲原町) ・〇栲原町 ・栲原町森林組合 ・ゆすはらベレット(株) ・ゆすはらエネルギー(株) ・(株)KIRecub 栲原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」・「生活環境の整備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベーション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再造林の実現、再生可能エネルギーの地産地消化に取り組む。	林業の新規 就業者数 6人 (R4)	0人	5人	16人 (R6～9 累計)	<b>1 森林と関わる新たな人づくり</b> ・地域おこし協力隊員の人材確保するため 林業体験ツアー(2泊3日)を開催【2月】 ・(株)KIRecubのHPの内容を充実させ、PRを実施・地域おこし協力隊の継続募集【通年】 ・移住定住フェアでのPR【6月、10～11月】 ・移住者向け住宅の整備【12月～3月】	<b>1 森林と関わる新たな人づくり</b> ・(株)KIRecubが林業大学からインターシップ3名受入れ(8/19～29) ・栲原令和の森林づくり植樹祭(4月) ・高知暮らしフェア(大阪・東京)(6月) ・移住者向け住宅(1軒)実施設計予定(1月)	3人 (R7.4月～11月) ・R7到達目標達成率：60.0% ・対前年同期比：-	D	<b>(成果)</b> ・植樹イベントにおけるPR活動により、地域おこし協力隊員の確保につながった。 【雇用創出数】3人(R7.11月時点) <b>(課題)</b> ・地域おこし協力隊応募者への効果的なアプローチ ・太郎川公園への誘客不足 <b>(今後の方向性)</b> ・人材確保に向けて、フェアやツアーなどへの継続的な参加 ・木質バイオマス発電所を環境学習の場として人を呼び込む取り組みを検討	<b>1 森林と関わる新たな人づくり</b> ・地域おこし協力隊員の確保のため 林業体験ツアー(2泊3日)を開催【10月】 ・(株)KIRecubのHPの内容を充実させ、PRを実施・地域おこし協力隊の継続募集【通年】 ・移住定住フェアでのPR【6月、10～11月】 ・移住者向け住宅の整備【12月～3月】																				
													町実施の 再造林面積 2.08ha (R4)	10.42ha	15ha	30ha	<b>2 森林資源の循環利用</b> ・町有林の再造林の実施【通年】 ・森林管理制度による意向調査実施【12月】 ・調査箇所の皆伐実施と再造林の準備【通年】 ・環境先進企業・高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施(協働の森づくり事業等)【8月】 ・既存商品のブラッシュアップ【通年】 ・木工品加工機械の導入(県地域林業総合支援事業補助金)【9月】 ・イベント、ECサイトでの販売促進【通年】 ・ふるさと納税返礼品への登録検討【通年】 ・木質バイオマス発電施設整備：建設【R6.10月～R8.3月】 ・バイオマス発電施設へのベレット供給に向けた、ゆすはらベレットの施設整備(増設)：建設【R6.10月～R8.3月】	<b>2 森林資源の循環利用</b> ・(株)KIRecubの活動を広くPRするため、Instagramアカウント開設(7月) ・木工品加工機械の導入(県地域林業総合支援事業補助金)(9月) ・栲原森林づくり大学構想事業の一環として、栲原高校生を対象に環境先進企業の職場見学を実施(8/27～29) ・木工製品とアロマオイルを栲原町ふるさと納税返礼品に登録し販売開始(9月～) ・木質バイオマス発電施設及びベレット工場は、計画どおりR8.4月の稼働に向け整備中	11.7ha (R7見込み) ・R7到達目標達成率：78.0% ・対前年同期比：112.3% ※R8.1月～3月に再造林の予定が含まれる	C	・販売戦略策定及び商品開発の企画(産振アドバイザー制度の活用)【4～7月】 ・木工品加工機械の導入(地域林業創造支援事業)【9月】 ・イベント、ECサイトでの販売促進【通年】 ・ふるさと納税返礼品への登録検討【通年】 ・木質バイオマス発電施設整備：稼働開始【R8年度中】 ・バイオマス発電施設へのベレット供給に向けた、ゆすはらベレットの施設整備(増設)：稼働開始により木質ベレット増産【R8年度中】	<b>2 森林資源の循環利用</b> ・町有林の再造林の実施【通年】 ・森林管理制度による意向調査実施【12月】 ・調査箇所の皆伐実施と再造林の準備【通年】 ・環境先進企業・高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施(協働の森づくり事業等)【8月】 ・既存商品のブラッシュアップ【通年】 ・販売戦略策定及び商品開発の企画(産振アドバイザー制度の活用)【4～7月】 ・木工品加工機械の導入(地域林業創造支援事業)【9月】 ・イベント、ECサイトでの販売促進【通年】 ・ふるさと納税返礼品への登録検討【通年】 ・木質バイオマス発電施設整備：稼働開始【R8年度中】 ・バイオマス発電施設へのベレット供給に向けた、ゆすはらベレットの施設整備(増設)：稼働開始により木質ベレット増産【R8年度中】										
																							森林由来の 新商品開発 (もの・サービス)	6品	6品 (R6～7 累計)	4品 (R6～9 累計)	<b>3 交流人口の拡大</b> ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会や関係機関と連携した体験型のイベントを開催【5月、11月】	<b>3 交流人口の拡大</b> ・太郎川公園森林フェスティバル(5月、11月) ・太郎川公園内へのアクティビティ施設(ファンモック)整備(8月) →8/13～15無料開放を実施	6品 (R6.4月～11月) ・R7到達目標達成率：100.0% ・対前年同期比：0.0%	A	・稼働開始【R8年度中】 ・バイオマス発電施設へのベレット供給に向けた、ゆすはらベレットの施設整備(増設)：稼働開始により木質ベレット増産【R8年度中】	<b>3 交流人口の拡大</b> ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会や関係機関と連携した体験型のイベントを開催【5月、11月】 ・木質バイオマス発電所を環境学習の場として活用【通年】
太郎川公園 の利用者数	8,083人 (R4)	12,688人	20,000人	30,000人	7,670人 (R7.4月～10月) ・R7到達目標達成率：57.5% ・対前年同期比：87.4%	D																										

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
水産業	6	<p><b>須崎市産養殖マダイ等の販路拡大</b> (須崎市)</p> <p>【実施主体】 ・◎(株)小島水産 ・◎乙女会 ・高知県漁協深浦支所</p> <p>養殖魚(マダイ)生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協と連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力(自社価格の設定、加工による付加価値の向上、取引量の拡大等)を構築し、養殖業の振興を図る。</p>	乙女鯛 売上高  会計年度 10月～9月 ※R5.10から 1月末決算に 変更  103,909 千円 (R4)	221,166 千円	250,000 千円	200,000 千円	<p><b>1 品質の維持・向上と生産量の確保</b> ・生産者の乙女会への新規加入の促進【通年】</p> <p><b>2 販路の開拓・拡大</b> ・県内外商談会への出展(大阪、名古屋方面)【通年】 ・ふるさと納税返礼品及びECサイトによる販売の拡大【通年】 ・個別の商談等による販路の拡大【通年】</p> <p><b>3 加工体制の強化・新商品の開発</b> ・OEM先との連携による高付加価値商品等の安定生産【通年】 ・新商品の開発【通年】 (検討中のアイデアのさらなる商品化)</p>	<p><b>1 品質の維持・向上と生産量の確保</b> ・飼料仕入れ価格の値上がり分に対して、乙女鯛の買取価格の引き上げや生産者への飼料販売価格の値上げ幅を低く調整するなど、生産者の経営の下支えを継続 ・生産量の確保及びマダイの品質保持を継続</p> <p><b>2 販路の開拓・拡大</b> ・販売体制を強化するため、自社ECサイトの立ち上げを予定していた。 →経営体制の変更に伴い、再度ECサイトの必要性について再考。 現在は開設作業を休止。 ・販路については、既存の流通ルート重視を継続。 ・大手回転寿司チェーンのフェアにおいて乙女鯛の2週間限定でスポット販売を実施 (10月)</p> <p><b>3 加工体制の強化・新商品の開発</b> ・地元の加工業者と業務提携を行い、乙女鯛の炭焼きたたき販売体制を強化(5月～) ・業務提携により炭焼きたたき他、鯛の燻製スライスを開発(4月) ・冷凍機器導入を予定(高知県食品加工高度化支援事業費補助金) →機器導入が円滑に進めば、年度内に冷凍商品の商品開発をスタートさせる予定。切り身やフィレ等の冷凍素材だけでなく、アラの活用も検討。</p>	220,358千円 (R7.2月～11月)  ・R7到達目標達成率： 105.8% ・対前年同期比：189.2%	A	<p><b>(成果)</b> ・既存の流通ルートの量販店を中心に取引額が拡大し売上げが向上している(前年同期比)。 ・大手回転寿司チェーンにおけるスポット販売が売上げの増加を後押しした。</p> <p><b>(課題)</b> ・高齢化による今後の生産者数の減少 ・今夏の高水温によって生育阻害が発生し、出荷遅延が発生。 販路拡大にも影響が生じている。</p> <p><b>(今後の方向性)</b> ・担い手の確保に向けた地元の養殖業者の連携を支援 ・稚魚導入時期の調整や給餌方法の工夫により、夏場の高水温対策を実施 ・飼料メーカーと提携し、ゆず残渣を利用した飼料作成を検討(柑橘類を餌に使用している他社の養殖マダイとの差別化を図る) ・既存流通ルートを活用した販売拡大の継続 ・需要が高く、高付加価値が見込める冷凍商品の商品開発に注力する。</p>	<p><b>1 品質の維持・向上と生産量の確保</b> ・生産者の乙女会への新規加入の促進【通年】 ・マダイの生育阻害の防止のため、夏場の高水温対策を実施【通年】</p> <p><b>2 販路の開拓・拡大</b> ・既存の流通ルート重視による販売量の拡大【通年】 ・ふるさと納税返礼品及びECサイト販売の拡大【通年】 ・個別の商談等による販路の拡大【通年】</p> <p><b>3 加工体制の強化・新商品の開発</b> ・安定した加工体制の確立【通年】 ・新商品(冷凍)の開発【通年】 ・ゆず残渣を利用した飼料作成の検討【通年】 ・冷凍設備導入のため、高知県食品加工高度化支援事業費補助金の活用予定【1月～3月】</p>
水産業	7	<p><b>ゆずはらアメガの生産・販売促進</b> (梶原町)</p> <p>【実施主体】 ・◎集落活動センター「おちめん」 ・梶原町</p> <p>梶原町の伝統産業であるアメガ養殖事業を持続発展させるため、担い手の確保と育成、デジタル技術を導入した最適な養殖環境の構築による安定生産と販売拡大を図る。</p>	売上高  376万円 (R5)	397万円	1,306万円	1,626万円	<p><b>1 生産体制の確立・強化</b> ・デジタル化により取得したデータを活用した養殖事業の効率化に向けた取り組みの継続【通年】 ・専門業者による水カビ病対策の実施【通年】</p> <p><b>2 販路の拡大</b> ・販売・収支計画の見直し【9月】 ・HPやSNS等による情報発信【通年】 ・「遊友館」等を活用したアメガ関連イベントの開催の継続【9月】 ・県内企業とのコラボ商品開発の継続【通年】 ・商談会出展や営業活動による販路の開拓【通年】</p>	<p><b>1 生産体制の確立・強化</b> ・水量・水質やアメガの行動形態等について、データの取得・蓄積 →データ結果を踏まえた効率の良い育成方法を実践中 ・関係者で情報共有するための定例会の開催(隔週) ・水カビ病対策として銅ファイバーの導入(R7.10月～) →水カビ病の抑え込みに成功し、生産量に影響ない見込み</p> <p><b>2 販路の拡大</b> ・販売会議の開催：3回(5/14、9/17、12/10) →販売・収支計画案を作成(12月) ・ふるさと納税及び民間ECサイトでの取扱開始(7月～) ・町内直販所等での販売開始(7月～) ・県内卸売業者との協議(10月) →販路拡大に関する情報収集</p>	409万円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：47.0% ・対前年同期比：103.6%	D	<p><b>(成果)</b> ・ふるさと納税及び民間ECサイト、町内直販所での販売を開始(7月～)したことにより、小売部門の売上額が対前年同期比175%に増加</p> <p><b>(課題)</b> ・生産量の確保及びそれに伴った販路開拓が必要 ・アメガ養殖および販売に関わる人材の不足</p> <p><b>(今後の方向性)</b> ・銅ファイバーの運用を継続し水カビ病の発生を抑制 ・(一社)高知県地産外商公社や(一社)ゆずはら雲の上梶原町観光協会等と連携し、販路開拓を継続 ・アメガ養殖および販売に関わる人材の募集(1名)</p>	<p><b>1 生産体制の確立・強化</b> ・デジタル化により取得したデータを活用した養殖事業の効率化に向けた取り組みの継続【通年】 ・専門業者及び内水面漁業センターと連携した水カビ病対策の実施【通年】 ・アメガ養殖および販売に関わる人材の確保</p> <p><b>2 販路の拡大</b> ・HPやSNS等による情報発信【通年】 ・新商品開発【通年】 ・商談会出展や営業活動による販路の開拓【通年】</p>

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
商 工 業	8	<p>「鯉乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町)</p> <p>【実施主体】 ・◎企画・ど礼もん企業組合 ・中土佐町</p> <p>中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。</p>	売上高 3,072万円 (R4)	4,991万円	4,800万円	5,900万円	<p><b>1 安定的な生産体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊の募集の継続【通年】</li> <li>・商品の製造効率化や生産体制強化に向けた施設整備の検討(急速冷凍機等)【10月～12月】</li> <li>・新商品の開発・商品化に向けた試作・検討【通年】</li> <li>・HACCP認証(JFS)取得に向けた検討(コンサルティングの活用等)【通年】</li> </ul> <p><b>2 販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外での催事や商談会への参加【通年】</li> <li>・継続的なECサイトの分析・改良【通年】</li> <li>・SNSやメールマガジン等を活用した情報発信の強化【通年】</li> </ul>	<p><b>1 安定的な生産体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊(団体委託型)が2名着任(R7.7月～1名、R7.8月～1名)</li> <li>・商品の製造効率化や生産体制強化のための急速冷凍機の導入(10月～)</li> <li>・県外企業との取引に合わせた無添加の調味料を使った鯉コック丼を開発・取引開始(8月～)</li> <li>・食のイノベーションベースを活用した新商品の開発(8月～1月)</li> <li>・HACCP認証(JFS)取得に向けたコンサルティングの活用を検討(R8～)</li> </ul> <p><b>2 販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の催事への参加：7回</li> <li>・商談会・展示会への参加：7回</li> <li>・企業のバイヤーによる産地見学会の受入れ：6回</li> <li>・冷凍カツオの輸出に向けた情報収集のため、高知県水産物輸出促進協議会に入会(4月～)</li> <li>・ECサイトやSNS担当の地域おこし協力隊の着任(8月～)</li> <li>・テレビ番組での商品紹介(11月)及び番組公式通販での販売開始(11月～)</li> </ul>	<p>4,624万円 (R7.4月～11月)</p> <p>・R7到達目標達成率：144.5%</p> <p>・対前年同期比：132.6%</p>	<p>S</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外催事や商談会への参加等の積極的な外貨活動により、県外企業との商談が成立する等BtoBの取引が進んでいる。</li> <li>・地域おこし協力隊の雇用や人員配置の効率化により、商品の製造体制が強化された。</li> <li>・テレビ番組の公式通販でのタキセットの販売により売上が急伸した。</li> <li>→約2,500セット販売(11月上前年比385%)</li> </ul> <p>【雇用創出数】2人(R7.11月末時点)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社ECサイトの売上の伸び悩み</li> <li>・タキについて、他企業と比較すると高価格帯のため、価格に見合う付加価値のPRが必要</li> <li>(久礼かつお、アルコールブライン凍結での急速冷凍(ワンフローズン)、解凍後のトリップの少なさ、鮮度が長持ち等)</li> </ul> <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的なECサイトの分析・改良</li> <li>・県外での催事や商談会への参加を継続</li> <li>・SNSやメールマガジン等を活用した情報発信の強化</li> </ul>	<p><b>1 安定的な生産体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の製造効率化や生産体制強化に向けた施設整備の検討(換気設備、コンベック等)【通年】</li> <li>・新商品の開発・商品化に向けた試作・検討【通年】</li> <li>・HACCP認証(JFS)取得に向けたコンサルティングの活用【通年】</li> </ul> <p><b>2 販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外での催事や商談会への参加【通年】</li> <li>・継続的なECサイトの分析・改良【通年】</li> <li>・SNSやメールマガジン等の活用等強化した情報発信の継続【通年】</li> </ul>		

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
商 工 業	9	道の駅なかとさSEAプロジェクト (中土佐町)  【実施主体】 ・◎(株)SEAプロジェクト ・中土佐町  「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人をはじめとする地域資源を有効に活用して、中土佐町の魅力向上や町全体の賑わいの創出を図り、所得向上及び雇用の創出等町全体に経済効果を波及させる。	売上高 (施設全体) 3.0億円 (R4)	3.3億円	3.7億円	3.9億円	<b>1 賑わい創出への展開</b> ・各テナントや生産者と連携したフェアや季節毎のイベント開催【通年】 ・HP、SNS等による情報発信【通年】 ・新規出荷者・出品事業者の獲得【通年】 ・集客促進や施設の利便性向上のための改修の検討【通年】  <b>2 周辺施設との連携強化</b> ・町内事業者の商品を含めた外商活動の展開【通年】 ・町内事業者との情報共有による連携や共同企画の検討【通年】  <b>3 地産外商の強化</b> ・町内産品を活用したオリジナル商品の開発【通年】 ・ファストフードコーナーの商品ラインナップの充実【通年】 ・イベント・商談会・催事への参加【通年】	<b>1 賑わい創出への展開</b> ・各テナントとの情報共有や連携を目的とした「テナント会議」の開催(8/13、1/14予定) ・ラジオやTV取材等のメディア出演やSNSを活用したPR ・道の駅なかとさスプリングフェア(4/19～4/26) ・かつお祭と連動したイベントの開催(5月) ・来場者数200万人突破記念イベント開催(5/30) 限定メニューの提供や割引キャンペーンの実施 ・8周年記念祭(7/19～7/21) ・クリスマスマーケット2025 in 高知への出店(12/19～25) ・店内レイアウトの変更による導線の改善  <b>2 周辺施設との連携強化</b> ・町内事業者の商品を含めた外商活動の実施 ・観光協会や町内事業者と連携したメジカの新子の情報発信による誘客の促進(8月～)  <b>3 地産外商の強化</b> ・オリジナル商品の販売 →「にんにく香るカツオの竜田揚げ」(7月～) ※期間限定複製販売 →「大漁旗ピック」販売開始(4月～) ・町内産品を活用したオリジナル商品を開発中 ・大野見の七面鳥を使った新商品「ターキーコロッケ」販売開始(11月～) ・季節ごとのファストフードコーナー商品の販売 ・ファストフードコーナーのメニューの見直し及び商品写真の改良(8月～) ・県内外の催事への参加：4回 ・県内外の商談会・展示会への出展：7回	2.4億円 (R7.4月～11月) ・R7到達目標達成率：97.3% ・対前年同期比：108.7%	B	<b>(成果)</b> ・県外催事や商談会への参加等の積極的な外商活動によって、町内事業者の魅力発信や中土佐町の認知度向上につながっている。 ・ファストフードコーナーのメニュー改善及び商品写真の改良等により、集客促進が図られた。 ・テナント会議の開催により、各テナントと定期的に情報共有する機会が増加  <b>(課題)</b> ・SNS等での情報発信の強化及び職員のスキル向上  <b>(今後の方向性)</b> ・SNS等での情報発信の強化に向けた支援制度の活用(産振アドバイザー制度等)	<b>1 賑わい創出への展開</b> ・各テナントや生産者と連携したフェアや季節毎のイベント開催【通年】 ・SNS等による情報発信の強化に向けた支援制度の活用(産振アドバイザー制度等)【6月～】 ・新規出荷者・出品事業者の獲得【通年】  <b>2 周辺施設との連携強化</b> ・町内事業者の商品を含めた外商活動の展開【通年】 ・町内事業者との情報共有による連携や共同企画の検討【通年】  <b>3 地産外商の強化</b> ・町内産品を活用したオリジナル商品の開発【通年】 ・ファストフードコーナーの商品ラインナップの充実【通年】 ・県内外の商談会・催事への参加【通年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		
商 工 業	10	<b>梶原町地産地消・外商の促進</b> (梶原町)  【実施主体】 ・◎梶原町商工振興協同組合 ・梶原町 ・JA高知県(高西地区) ・町内事業者 ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会  生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化等、地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し、地産地消・外商を一層推進する。	直販所等の販売額 4,832万円 (R4)	5,296万円	5,866万円	1億円	<b>1 地場産品の販売促進</b> ・新しい道の駅で販売する商品や売り場づくりの検討【通年】 ・ふるさと納税返礼品等の商品開発【通年】  <b>2 地場産品の商品力向上</b> ・認知度向上に向けた積極的な販促活動【通年】 ・商品力向上に向けたブランド力の強化【通年】	<b>1 地場産品の販売促進</b> ・販売商品や売り場づくりについて外部アドバイザーからの指導・助言(令和7年度梶原町人口減少対策総合補助金(地域の生業創出事業地域商社機能創出アドバイザー業務)) ・梶原町直販所出荷おうえん事業 →生産者から町内直販所への集出荷支援体制(初夏～秋、週2回)を構築  <b>2 地場産品の商品力向上</b> ・関西・関東に展開する居酒屋チェーンとタイアップした「梶原フェア」開催(5/17～6/1) ・関東に展開する飲食店グループとのレシピ共同開発 →梶原町産食材を使用した新レシピの開発：2品 (雑ラーメン：12月提供開始、ゆすはら牛の牛丼：2月提供予定) ・梶原町ふるさと納税返礼品生産者協議会によるイベント出店 ・梶原高校生と新商品を共同開発(産振アドバイザー制度の活用) →梶原町産食材(ぶどう、牛すじ肉)を使用したレトルトカレー：1品(9月) ・新商品開発 →梶原町産品を使用したレトルト食品：2品 (四国カルスト高原カレー/ビーフンチュー)(5月) ・ワイン事業の拡大 →県外ワイナリーとOEM契約を締結、醸造中(11月～) ・梶原町統一ブランドの構築 →ブランディングの方向性について町内事業者の合意を確認(11月)、プレスリリースに向けて新商品・パッケージデザイン等について検討を継続	4,342万円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：111.0% ・対前年同期比：107.4%	S	<b>(成果)</b> ・直販所等の販売額は、前年同期と比較して(107.4%)と堅調に推移している。 ・新商品開発数：3品 ・新レシピ開発数：2品 ・農業用資材購入おうえん事業活用数：3件 ・野菜等種苗購入おうえん事業活用数：12件  <b>(課題)</b> ・販売拡大に伴う生産体制の再構築が必要 ・直販所出荷者の確保  <b>(今後の方向性)</b> ・ゆすはら雲の上観光協会を中心とした生産者間の情報共有や共同出荷の体制を構築 ・梶原町直販所出荷おうえん事業の補助メニューを拡充	<b>1 地場産品の販売促進</b> ・新しい道の駅で販売する商品や売り場づくりの検討【通年】 ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会を中心とした営業活動【通年】 ・ワイン事業の販売戦略策定(産振アドバイザー制度の活用)【通年】  <b>2 地場産品の商品力向上</b> ・ふるさと納税返礼品等の商品開発【通年】 ・町内直販所で販売する農産物等の生産者支援【通年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
商 工 業	11	<b>栲原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大</b> (栲原町)  【実施主体】 ・◎(株)SAKURA club  栲原町産の桜等を活用して、商品の開発・加工・販売に取組み、「栲原町産桜商品」の知名度のさらなる向上を目指すと共に、地域での雇用の創出を目指す。	売上高 230万円 (R4)	440万円	620万円	1,000万円	<b>1 新事業の展開</b> ・原材料の安定的な確保に向け県内事業者や県関係機関と桜産地化の検討【通年】 ・加工所敷地内にてテイクアウト形態を検討【8月】  <b>2 既存商品の販路拡大</b> ・消費者ニーズを把握した商品開発の継続【通年】 ・県外商談会出展による営業活動の継続【通年】 ・貿易協会等と連携した海外販路への展開を検討【通年】  <b>3 生産体制の強化</b> ・経営体制の強化に必要な人材募集【通年】 ・繁忙期における継続的なパート人材の確保【3月、4月】 ・オープンの導入による作業の効率化、省力化【R7】	<b>1 新事業の展開</b> ・町内外客への誘客、認知度向上を目的とした「桜畑のテラスカフェ」プレオープン(8/15)(制度改正等の課題解決環境整備事業(高知県商工会連合会)を活用)  <b>2 既存商品の販路拡大</b> ・新商品5種類開発 (桜ハーブソルト、桜とレモンのドレッシング、桜シロップ、レモンのコンフィチュール、レモンのドレッシング)(7月～) ・イベント出展：12回 ・商談会出展：2回(11/5～8)、(11/26～28) (旅費の一部に小規模事業者持続化補助金(国)を活用) →7者と商談中(R7.11月時点)  <b>3 生産体制の強化</b> ・業務用高速オープン導入(12月) (小規模事業者持続化補助金(国)を活用)	187万円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：45.2% ・対前年同期比：57.7%	D	<b>(成果)</b> ・新商品開発数：5品  <b>(課題)</b> ・経営体制の強化が必要  <b>(今後の方向性)</b> ・パート従業員の募集継続と人材育成により経営体制及び人員体制を強化 ・(一社)高知県地産外商公社や(一社)ゆすはら雲の上観光協会等と連携し、販路開拓を継続	<b>1 新事業の展開</b> ・原材料の安定的な確保に向け県内事業者や県関係機関と桜産地化の検討【通年】 ・「桜畑のテラスカフェ」の本格営業【通年】  <b>2 既存商品の販路拡大</b> ・消費者ニーズを把握した商品開発の継続【通年】 ・(一社)高知県地産外商公社や(一社)ゆすはら雲の上観光協会等と連携し、販路開拓を継続 ・貿易協会等と連携した海外販路への展開を検討【通年】  <b>3 生産体制の強化</b> ・経営体制の強化に必要な人材の募集と育成【通年】 ・繁忙期における継続的なパート人材の確保【3月、4月】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
商 工 業	12	<b>津野町地産地消・外商推進プロジェクト</b> (津野町)  【実施主体】 ・〇津野町 ・(有)津野町ふさとセンター ・(株)満天の星 ・JA高知県(高西地区)  町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。	主要2社の 総売上高	4.20億円	4.08億円	4.46億円	<b>1 アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につながる商品づくりの推進</b> ・アンテナショップリニューアルにおける基本構想・基本設計【通年】 ・アンテナショップリニューアルに向けた新商品開発検討【通年】	<b>1 アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につながる商品づくりの推進</b> ・アンテナショップの指定管理事業者と、情報共有会議を定期的開催 ・アンテナショップリニューアル方針の検討 ・(有)津野町ふさとセンターがティーバッグ加工を実施(JA及び満天の星のOEM製造)	2.60億円 (R7.4月～10月)  ・R7到達目標達成率： 109.2% ・対前年同期比：102.0%	<b>A</b>  <b>(成果)</b> ・(有)津野町ふさとセンターの売り上げが堅調に推移している。 (R6.10月末：1.21億円 → R7.10月末：1.31億円)  <b>(課題)</b> ・アンテナショップの指定管理者の選定等、方針が未決定 ・アンテナショップのリニューアルの方針についての検討が遅延  <b>(今後の方向性)</b> ・アンテナショップの指定管理期間が令和8年度までとなり、来期に向けた指定管理者の方針を令和7年度中に決定 ・アンテナショップのリニューアルの方針の検討 ・(有)津野町ふさとセンターにおいて、OEM製造以外にも自社で野草茶のティーバッグ製造を行い、R8.1月以降にテスト販売予定	<b>1 アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につながる商品づくりの推進</b> ・アンテナショップリニューアルにおける基本構想の策定【4～3月】	
			直販所 総販売額	1.21億円	1.36億円	1.40億円	<b>2 出荷量の確保と地産地消の推進</b> ・ティーバッグ商品の開発・販売【通年】 ・生産者にティーバッグ加工用の野草茶や茶葉の出荷の呼びかけ【通年】	<b>2 出荷量の確保と地産地消の推進</b> ・直販所営業コーディネーターによる生産者指導 ・持続可能な直販制度の設計及び検討を行う「津野町直販最適化委員会」の設立(9月) →月1回のペースで開催 →直販会員の声を踏まえて課題を整理し、(有)津野町ふさとセンターと情報共有	0.79億円 (R7.4月～10月)  ・R7到達目標達成率：99.6% ・対前年同期比：106.8%	<b>B</b>  <b>(成果)</b> ・直販所の総販売額が、前年を上回って推移している。 (R6.10月末：7,400万円 → R7.10月末：7,900万円)  <b>(課題)</b> ・直販生産者の高齢化による出荷量減少 ・道の駅(布施ヶ坂)の施設の老朽化 ・(有)津野町ふさとセンターの人手不足  <b>(今後の方向性)</b> ・月1回最適化委員会を継続し、直販所のあり方を検討 ・(有)津野町ふさとセンターの人手不足に、町としての支援を検討	<b>2 出荷量の確保と地産地消の推進</b> ・ティーバッグ商品の開発・販売【通年】 ・生産者にティーバッグ加工用の野草茶や茶葉の出荷の呼びかけ【通年】 ・直販担当の地域おこし協力隊の募集を検討【通年】 ・直販所のあり方を検討【通年】	
			茶製品 販売額	3,207万円	4,220万円	4,400万円	<b>3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大</b> ・JAを中心としたかぶせ茶の生産体制の調整【通年】 ・つの茶を気軽に味わう場所、商品の拡大【通年】 ・つの茶のブランディングに向けた協議検討【通年】 ・ティーツーリズム可能性調査の実施【通年】 ・地域おこし協力隊の募集及びSNS等を活用した情報発信【通年】	<b>3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大</b> ・かぶせ茶の生産維持・増産に向けて、生産者への声かけによる調整 ・つの茶を気軽に味わえるイベント件数：11件(4月～11月) ・関西万博で道の駅茶飲料の販売(8/22～23) ・「四万十こちやソーダ」の開発、販売開始 ・新商品開発や体験イベントの造成、販売促進に向けて茶業振興アドバイザーを随時導入 ・あぐりナビや町HP、県移住ポータルサイトにて地域おこし協力隊の募集	1,819万円 (R7.4月～10月)  ・R7到達目標達成率：73.9% ・対前年同期比：104.0%	<b>C</b>  <b>(成果)</b> ・「四万十こちやソーダ」が新たに開発され万博で先行販売した。 →271杯(8/22～23) ・第61回高知県茶品評会で7賞のうち高知県知事賞などを含む5賞をつの茶が受賞  <b>(課題)</b> ・生産者の減少 ・世界的な抹茶人気で全国的に碾茶への移行が進み、荒茶生産が減少傾向 ・かぶせ茶パウダーの人気による供給不足  <b>(今後の方向性)</b> ・茶生産に特化した地域おこし協力隊の募集継続 ・お茶の木を再生させるための「中切り」作業の支援 ・需要に応じた計画的なかぶせ茶パウダーの製造	<b>3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大</b> ・JAを中心としたかぶせ茶の生産体制の調整【通年】 ・つの茶を気軽に味わう場所、商品の拡大【通年】 ・つの茶のブランディングに向けた協議検討【通年】 ・ティーツーリズム可能性調査の実施【通年】 ・地域おこし協力隊の募集及びSNS等を活用した情報発信【通年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
商 工 業	13	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化 (四万十町)  【実施主体】 ・◎四万十町 ・(株)あぐり窪川  道の駅兼地場産業振興センターであるあぐり窪川を拠点とし、地域の特産品の直販やレストランでの提供、観光情報の発信、地域資源を活用した加工品の開発と販売により、地場産業の振興と地域活性化を目指す。	売上高 3.15億円 (R4)	3.15億円	3.96億円	4.41億円	<b>1 物販・レストランの強化</b> ・物販・直販所の魅力向上に向けた商品や売り場の見直し、出品者の新規獲得等【通年】 ・レストランの受入態勢の強化とサービスの向上【通年】  <b>2 商品開発・販路拡大</b> ・新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし【通年】 ・営業活動の強化【通年】  <b>3 情報発信機能の強化</b> ・SNSを活用した情報発信【通年】 ・情報発信のための社内体制構築【4月】	<b>1 物販・レストランの強化</b> ・道の駅のレイアウト変更に伴う協議(5月、9月)→1/21にレイアウトを変更 ・出品者の新規獲得：5名 ・地元客呼び込みに向けたワゴンコインモーニング及び平日限定の安価なハンバーランチの開始(4月～) ・季節限定のメニューの提供(5月～)  <b>2 商品開発・販路拡大</b> ・町内産の豚肉を使った餃子のOEM受注(1月～) ・月30件を目標にバイヤー等へのコンタクトを実施中 ・フェア、スポット採用件数：26件(4月～11月) ・商談会・イベントへの参加：13件(4月～11月)  <b>3 情報発信機能の強化</b> ・新たに担当者1名を配置し、Instagramで定期的に情報を発信(4月～) ・高知新聞折り込みチラシ(あぐり広報室)の範囲を須崎市～四万十町へ拡大し、情報発信を強化(3月～7月) ・HP及びECサイトの委託先変更(10月～) ・SNS研修の受講(8回)	2.20億円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：83.3% ・対前年同期比：108.0%	C	<b>(成果)</b> ・営業課による外商実績が増加している。 外商実績：約6千万円(対前年同期比約120%)  <b>(課題)</b> ・レストラン部門の固定費の削減 ・展示商談会での要望に応じた商品の開発 ・SNS等での情報発信の強化  <b>(今後の方向性)</b> ・レストランのシフト見直しやメニューの削減などによる固定費の抑制 ・業務用商品の開発・提案 ・商工会等のSNS研修を活かした情報発信の強化	<b>1 物販・レストランの強化</b> ・物販・直販所の魅力向上に向けた商品や売り場の見直し、出品者の新規獲得等【通年】 ・レストランの受入態勢の強化とサービスの向上【通年】  <b>2 商品開発・販路拡大</b> ・新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし【通年】 ・営業活動の強化【通年】  <b>3 情報発信機能の強化</b> ・SNSを活用した情報発信【通年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況				
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析		R8計画
商 工 業	14	<p><b>四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大</b> (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎RELA GREEN VILLAGE(株)</p> <p>生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により、四万十町産をはじめとした近隣地域の生姜の知名度向上を狙う。また、町内の生姜農家や企業等と連携し、減農薬栽培に向けた取り組みを進めることで、地域の生姜農家の所得安定・向上や雇用の創出を目指す。</p>	売上高	459万円 (9月～8月)	1,050万円	1,480万円	<p><b>1 施設整備</b> ・加工施設整備の計画策定【通年】</p> <p><b>2 商品開発、販売促進</b> ・加工品の製造体制の検討【通年】 ・環境負荷低減が可能な栽培方法の実証実験【通年】</p>	<p><b>1 施設整備</b> ・簡易な加工場にて漬物製造許可を取得(10月) ・生姜の一次処理～加工まで行える施設の具体的な設計を調整中</p> <p><b>2 商品開発、販売促進</b> ・簡易な加工場にて生姜の漬物を製造、菌検査を実施 →販売協力会社を通じてトライアルで販売予定 ・環境への負荷を低減する栽培に取り組むため、研究機関とともに、圃場から川へ流れる水の水質検査を定期的に実施中</p>	76万円 (R7.9月～11月)	D	<p><b>(成果)</b> ・漬物製造許可を取得し、加工品の製造環境を整えられた ・新商品の販売に向けた試作が進んでいる</p> <p><b>(課題)</b> ・需要に応じた商品の開発が必要</p> <p><b>(今後の方向性)</b> ・生姜の一次処理から加工まで効率的に行える施設整備計画の策定 ・新商品開発(産振アドバイザーの活用等検討)</p>	<p><b>1 施設整備</b> ・加工施設整備の計画策定【通年】</p> <p><b>2 商品開発、販売促進</b> ・産振アドバイザーの活用も視野に入れた新商品の開発および販売【通年】 ・環境負荷低減が可能な栽培方法の実証実験【通年】</p>	
観 光	15	<p><b>高幡地域における広域観光の推進</b> (高幡地域全域)</p> <p>【実施主体】 ・◎(一社)奥四万十高知 ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町</p> <p>(一社)奥四万十高知を中心に高幡地域内の観光、自然、食、人等の観光資源を組み合わせ新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力を情報発信し、セールス活動を行うことでエリアの知名度向上や誘客を促進し、地域経済の波及効果につなげていく。</p>	主要観光施設入込数	2,081,383人 (R4)	2,087,909人	2,261,720人	2,646,000人	<p><b>1 観光情報の発信</b> ・高知県や四国ツーリズム創造機構が推進する誘客活動への積極的な参加と、独自セールス活動の強化【年6回】 ・ツーリズムEXPOを主体とした県外イベントへ出展(とさとなど関西を中心としたPR)【年3回】 ・奥四万十エリアの認知度向上に向けた、旅行雑誌の特別編集号制作による情報発信【12月】</p> <p><b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・「どぶり高知旅キャンペーン」と連動した周遊促進・滞在期間延長への取り組み【通年】 ・旅行商品造成拡充【通年】 ・台湾等、海外商談会への出展【2月】 ・ファミツアー事業展開強化【2回】</p> <p><b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・地域連携DMO登録に向けての取り組み強化【7月】 ・広域エリアと連携した誘客促進(四国カルスト協議会、他広域等)【通年】 ・大阪・関西万博を活用したインバウンド誘客【8月】 ・教育旅行への取り組み促進【1月】 ・体験事業者やガイド等の観光人材の育成【1月】</p>	<p><b>1 観光情報の発信</b> ・商談会およびセールス参加 →商談会：7回・99社、セールス：13回・57社(4月～9月) ・各種イベントへの出展(5月：大阪長居植物園高知県マルシェ、9月：ツーリズムEXPOジャパン2025) ・HP、SNSによる域内イベント情報の発信 ・旅行雑誌の特別編集号制作(1月)</p> <p><b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・どぶり高知旅キャンペーンと連動したコンテンツの磨き上げのための造成会議開催(須崎市：4月・津野町：4月・四万十町：7月(3回)) ・奥四万十高知主催の募集型企画旅行(募集ツアー)の造成および募集開始 →7月：1本、8月：2本、9月：1本、10月：1本、11月：2本 ・温泉郷をフックにしたキャンペーンの実施(R7.9.1～R8.3.1) ※2本同時開催 「おくしまと温泉郷 プレゼントキャンペーン」 「奥四万十泊まらんと！巡らんと！キャンペーン2025」 ・「みどりの学習旅行プログラム」の受け入れ(R7.9.16～18) →関西大学の学生8名をモニターとするツアーを開催 ・台湾旅行エージェンツ招へい事業(ファミツアー)実施 →7月：2社、11月：2社</p> <p><b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・観光庁候補DMOとして登録(10月) ・教育旅行受入対応および次年度以降下見対応 →5月：3校受入(大阪2校・京都1校)合計363名 →6月：4校受入(大阪4校)合計572名 →下見対応：7月(2件)、8月(1件) ・大阪・関西万博の県主催催事ブース出店(8月) ・職員のセミナー受講、勉強会への参加 →4月～9月：16件</p>	1,610,400人 (R7.4月～11月)	A	<p><b>(成果)</b> ・主要観光施設の入込数は、目標を上回り、好調に推移している。 ・商談会、セールス活動及び県外イベントへの出展により奥四万十エリアのPR、旅行客の誘致に寄与している。 ・奥四万十高知主催の募集型商品の造成及び募集を開始し、7本のうち5本が催行に至るとともに県外からの参加もあり、誘客につながっている。</p> <p><b>(課題)</b> ・目標達成に向け、道の駅を中心に集客対策が必要 ・どぶり旅キャンペーンと連動した募集型商品を多数造成していく予定ではあるが、ツアー内容の磨き上げやツアー催行のためのPRが課題</p> <p><b>(今後の方向性)</b> ・奥四万十温泉郷スタンプラリー等の企画を通じ、誘客促進やPR強化を実施 ・旅行会社向けファミツアーや県外へのセールスキャラバン等の企画等、セールス活動を強化 ・募集型商品の造成及びツアー内容の磨き上げ及びツアー催行のためのPRを強化 ・観光以外の産業と連携した素材・商品開発により、体験プログラムの開発によりコンテンツ造成に取り組む。</p>	<p><b>1 観光情報の発信</b> ・高知県や四国ツーリズム創造機構が推進する誘客活動への積極的な参加と、独自セールス活動の強化【通年】 ・ツーリズムEXPOなど県外イベントへの積極出展(とさとなど関西を中心としたPR)【4月～】 ・ホームページの改修(エリアマップの導入)</p> <p><b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・「どぶり高知旅キャンペーン」と連動した周遊促進・滞在期間延長への取り組み【通年】 ・旅行商品造成拡充【通年】 ・台湾等、海外商談会への出展【2月】 ・ファミツアー事業展開強化【2回】</p> <p><b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・DMOとしての事業推進(エリア内の多様な関係者が参画した合意形成に向けた会議の積極推進)【通年】 ・広域エリアと連携した誘客促進(四国カルスト協議会、四万十川みずみずツーリズム連絡会、県内各広域DMOなど)【通年】 ・教育旅行への取り組み促進【通年】 ・温泉郷をフックにしたキャンペーンのグレードアップ(デジタル化)【9月～3月】</p>
			主要宿泊施設宿泊者数	51,242人 (R4)	62,660人	64,000人	<p><b>1 観光情報の発信</b> ・観光庁候補DMOとして登録(10月) ・教育旅行受入対応および次年度以降下見対応 →5月：3校受入(大阪2校・京都1校)合計363名 →6月：4校受入(大阪4校)合計572名 →下見対応：7月(2件)、8月(1件) ・大阪・関西万博の県主催催事ブース出店(8月) ・職員のセミナー受講、勉強会への参加 →4月～9月：16件</p> <p><b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・どぶり高知旅キャンペーンと連動したコンテンツの磨き上げのための造成会議開催(須崎市：4月・津野町：4月・四万十町：7月(3回)) ・奥四万十高知主催の募集型企画旅行(募集ツアー)の造成および募集開始 →7月：1本、8月：2本、9月：1本、10月：1本、11月：2本 ・温泉郷をフックにしたキャンペーンの実施(R7.9.1～R8.3.1) ※2本同時開催 「おくしまと温泉郷 プレゼントキャンペーン」 「奥四万十泊まらんと！巡らんと！キャンペーン2025」 ・「みどりの学習旅行プログラム」の受け入れ(R7.9.16～18) →関西大学の学生8名をモニターとするツアーを開催 ・台湾旅行エージェンツ招へい事業(ファミツアー)実施 →7月：2社、11月：2社</p> <p><b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・観光庁候補DMOとして登録(10月) ・教育旅行受入対応および次年度以降下見対応 →5月：3校受入(大阪2校・京都1校)合計363名 →6月：4校受入(大阪4校)合計572名 →下見対応：7月(2件)、8月(1件) ・大阪・関西万博の県主催催事ブース出店(8月) ・職員のセミナー受講、勉強会への参加 →4月～9月：16件</p>	41,207人 (R7.4月～11月)	B	<p><b>(成果)</b> ・主要宿泊施設の宿泊者数は、対前年同期比で前年度を上回っている。 (R6.11月末：39,930人 → R7.11月末：41,207人) ・昨年度に好評だった旅行会社向け貸切バス助成金について、1事業者あたりの助成限度額を昨年度から引き上げ、今年度も実施しており、宿泊者数の増に寄与している。 →申請数：21件(R7.11月時点)</p> <p><b>(課題)</b> ・宿泊及び周遊につながる募集型商品の造成及びツアー内容の磨き上げ、ツアー催行のためのPRが課題</p> <p><b>(今後の方向性)</b> ・奥四万十PR動画(温泉郷)やSNSを活用し、開催中の周遊キャンペーンと併せて温泉施設のPRを強化 ・冬期の閑散期対策や域内の周遊につながるツアーの造成や周遊企画の実施 ・旅行会社向け貸切バス助成金について、商談会等で旅行会社向けにPRする等、取り組みの周知を強化</p>	<p><b>1 観光情報の発信</b> ・DMOとしての事業推進(エリア内の多様な関係者が参画した合意形成に向けた会議の積極推進)【通年】 ・広域エリアと連携した誘客促進(四国カルスト協議会、四万十川みずみずツーリズム連絡会、県内各広域DMOなど)【通年】 ・教育旅行への取り組み促進【通年】 ・温泉郷をフックにしたキャンペーンのグレードアップ(デジタル化)【9月～3月】</p>		

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
観光	16	<b>須崎市海のまちプロジェクト (須崎市)</b>  【事業実施主体】 ・〇須崎市 ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会 ・(一社)須崎海のまち公社  須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。	主要施設等の入込数  28,089人 (R4)	73,248人	42,000人	53,000人	<b>1 海のまち創り・リノベーション</b> ・宿泊施設及び入浴施設の整備【8月～3月】 ・大型バス用駐車場や新たな宿泊施設等への利活用を目的とした候補物件の選定、設計【通年】  <b>2 海のまちの魅力の向上・再発見</b> ・釣りバカ市民大会の開催：3回【5月、10月、1月】 ・市民向け釣り教室の検討・開催【月1回(通年)】 ・釣りバカシティプロジェクト協力店情報等を含んだ、リーフレットの製作【4月～3月】 ・エリアの施設、商店街を活用したイベント等の継続開催による賑わいを創出【通年】 ・釣りバカシティプロジェクト情報局の開設【6月】  <b>3 エリア外との連携促進</b> ・旅行企画の造成(初心者向け釣りコンテンツの造成等)【4月～3月】	<b>1 海のまち創り・リノベーション</b> ・「海のまち」ロゴの制作(R7.5月) ・宿泊施設及び入浴施設の整備 →宿泊施設：旧岩井レコード ※設計済、工事に向け調整中 旧吉村旅館(8月～整備中) →入浴施設：旧錦湯 ※設計済、工事に向け調整中 →大型バス駐車場：旧かわばたスーパー跡地活用に向け調整中 ・すさきでロイロイゴールデンウィーク開催(5/3～5) ・すさきでロイロイ夏休み開催(8/23～24) ・須崎のサカナ文化祭及び包丁式、雅楽の開催(11/15～11/16)  <b>2 海のまちの魅力の向上・再発見</b> ・GWイベントに連携した「手ぶらで3時間フィッシング」の開催(5/3～5) ・第3回すさき釣りバカ大会タイラバ開催(5/18) ・RKC放送局にて「釣りバカ ザ・ムービー」の放送開始(6/8～：毎週日曜) ・釣りバカシティすさき公式HPの開設(7月～) ・公式YouTubeチャンネル「釣りバカ・ザ・ムービー」の開設(7月～) ・静岡県下田市JIBT国際カジキ大会でのPR活動(7/24～27) ・第4回すさき釣りバカファミリーフェスタ開催(10/26) ・フィッシングショーOSAKA2026へ出店し、釣りバカのPRを実施(2/7～8)  <b>3 エリア外との連携促進</b> ・JTBと高知信用金庫が連携し観光ツアーの造成中 →JTB社員向け須崎視察ツアーの実施(4/9～10)	39,932人 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：142.6% ・対前年同期比：88.8%	S	<b>(成果)</b> ・須崎のサカナ文化祭及び包丁式、雅楽来場者数：12,700人 ・釣りバカのテレビ放送、公式HP、YouTubeチャンネルが開始されたことで、情報発信力が強化された。 公式HP：総閲覧者数5,145人(R7.11月時点) YouTube：投稿数15、総視聴数約4,067回(R7.11月時点) インスタ：フォロワー1,096人(R7.11月時点)  <b>(課題)</b> ・周遊促進に向けた宿泊施設、駐車場等の不足 ・市内周遊はもとより、高幡地域の玄関口として周辺地域への周遊促進施策の充実が必要  <b>(今後の方向性)</b> ・宿泊施設、入浴施設及び駐車場の整備についてスケジュール調整を検討 ・(一社)奥四万十高知との連携方法を検討	<b>1 海のまち創り・リノベーション</b> ・宿泊施設及び入浴施設の整備【4月～10月】 ・大型バス駐車場の整備【4月～3月】 ・商店街エリアを中心とした魅力度向上に向けた情報発信【通年】  <b>2 海のまちの魅力の向上・再発見</b> ・釣りバカ市民大会の開催：3回【5月、10月、1月】 ・市民向け釣り教室等の開催【月1回】 ・エリアの施設、商店街を活用したイベント等の継続開催による賑わいを創出【通年】 ・続可能な釣り場の環境整備に向けた啓発活動【通年】 公式HPやSNSを活用した積極的な情報発信【通年】  <b>3 エリア外との連携促進</b> ・旅行企画の造成【通年】 ・(一社)奥四万十高知と連携した須崎市を宿泊拠点とする周遊プランの企画造成【通年】

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
観光	17	<p><b>浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化(須崎市)</b></p> <p>【実施主体】 ・◎須崎市 ・(一社)須崎市観光協会 ・NPO法人すさきスポーツクラブ ・(株)ログスコアレーション ・その他関係事業者等</p> <p>須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設ログスコアパークとの連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。</p>	<p>主要施設等の入込数</p> <p>46,958人 (R5)</p>	40,042人	53,000人	63,000人	<p><b>1 海洋スポーツの振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業、大学等への合宿誘致活動【通年】</li> <li>競技連盟等へのアプローチ(水泳、カヌー)【6月、10月】</li> <li>オープンウォータースイミング参加者増に向けたPR活動等【6月】</li> </ul> <p><b>2 体験型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー層や子どもへの効果的なアプローチの検討【通年】</li> <li>情報発信の充実、マスコミ等を通じたPR【通年】</li> <li>イベントの開催【通年】</li> <li>ログスコアパーク宿泊エリアにおけるイベント等への活用を検討【通年】</li> </ul> <p><b>3 地域活性化に向けた連携強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣事業者との連携による滞在時間延長に向けた取り組みの検討【通年】</li> <li>市内事業者との周遊に向けた取り組みの検討【通年】</li> <li>海のまちプロジェクトとの情報共有、連携【通年】</li> <li>「どっぷり高知旅キャンペーン」と連携した観光ツアーの造成【～3月】</li> </ul>	<p><b>1 海洋スポーツの振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カヌージュニアショナルチーム合宿(4/17～4/20)</li> <li>カヌーU23・ジュニア日本代表合宿(6/16～6/19)</li> <li>OWSオーシャンズカップ2025視察及び大会誘致活動(6/14、6/15)</li> <li>ドラゴンカヌー大会の開催(8/3) →参加：29チーム</li> <li>すさきオープンウォータースイミングの開催(10/18、10/19) →参加者：261名、エントリー数：323名</li> <li>同志社大学カヌー部合宿(12/13～12/14)</li> <li>日本体育大学カヌー部合宿(12/22～12/25)</li> </ul> <p><b>2 体験型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>COMODO URANOUCIオープンイベント(7/20) 海上アスレチック、バナボート体験、お餅投げ等</li> <li>ログスコアパーク須崎リンクメニューの開発(産業振興アドバイザー制度の活用)</li> </ul> <p><b>3 地域活性化に向けた連携強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やなせたかし氏制作キャラクターの「なべらまん」を活用した須崎のPR事業、鍋焼きラーメンパンフレット作成及び配布(周遊促進・滞在延長事業費補助金(周遊促進・滞在延長支援事業))(6月～)</li> <li>須崎市観光協会を通じた地域事業者との連携促進 →釣った魚を捌くお店の紹介(提携店舗数：10店舗) →観光ツアー業者と地元の飲食店のマッチング</li> <li>釣りコンテンツ強化 →浦ノ内の釣り筏を活用したツアーの造成 →アカメ釣りのツアー造成 →ツアー造成数：19件(4月～11月)</li> </ul>	<p>29,221人 (R7.4月～11月)</p> <p>・R7到達目標達成率：82.7% ・対前年同期比：95.9%</p>	C	<p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カヌー場がJOC認定競技強化センターに認定(R7.4/1～R12.3/31)されたことに伴い、ナショナルチームやアマチュアチームの合宿が実施され、入込数増加に寄与している。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ログスコアパーク来場者の減少</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ログスコアパークに隣接する公園利用者の誘客、ファミリー層へのアプローチ、イベント等開催の検討(キャンプサイトを活用した観光コンテンツ造成)</li> </ul>	<p><b>1 海洋スポーツの振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業、大学等への合宿誘致活動【通年】</li> <li>オープンウォータースイミング参加者増に向けたPR活動等【通年】</li> </ul> <p><b>2 体験型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー層や子どもへの効果的なアプローチ(キャンプサイトを活用した観光コンテンツの造成)の検討【通年】</li> <li>情報発信の充実、マスコミ等を通じたPR【通年】</li> <li>イベントの開催【通年】</li> <li>ログスコアパーク宿泊エリアにおけるイベント等への活用を検討【通年】</li> </ul> <p><b>3 地域活性化に向けた連携強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣事業者との連携による滞在時間延長に向けた取り組みの検討【通年】</li> <li>市内事業者との周遊に向けた取り組みの検討【通年】</li> <li>海のまちプロジェクトとの情報共有、連携【通年】</li> </ul>

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
観光	18	<p><b>スケートパークを核とした地域の活性化(須崎市)</b></p> <p>【事業主体】 ・◎須崎市</p> <p>魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることがなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。</p>	主要施設等の入込数 -	-	-	27,000人	<p><b>1 魅力ある施設の整備に向けた協議等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事請負業者の公募【R7.4月～】</li> <li>・須崎市6月議会で承認後工事開始【6月～】</li> <li>・競技力向上及び競技人口増加に向けた事業計画の策定【6月～12月】</li> </ul> <p><b>2 ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的なイベント、大会の検討【6月～12月】</li> <li>・FLAKE CUPの誘致活動【12月～3月】</li> </ul> <p><b>3 効果的なプロモーションの検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信方法の検討【6月～12月】</li> <li>・オープニングイベントの検討【6月～12月】</li> <li>・FLAKE CUPの誘致活動(再掲)【12月～3月】</li> </ul>	<p><b>1 魅力ある施設の整備に向けた協議等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケートパーク条件付一般競争入札落札業者の確定(6月)</li> <li>・スケートパークの整備工事(6月～3月)</li> <li>・日本スケートパーク協会との協議及び八王子市スケートパーク施設視察(6/16)</li> <li>・先進地(東京都天王洲公園、宮下公園スケートパーク等)及び大会視察(1/16～1/17)</li> <li>・指定管理者の選定(3月予定)</li> </ul> <p><b>2 ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本スケートパーク協会との協議及び八王子市スケートパーク施設視察(6/16)(再掲)</li> <li>・県スポーツツーリズム課と大会誘致及びオープニングイベントについて協議(8/26、11/19)</li> </ul> <p><b>3 効果的なプロモーションの検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本スケートパーク協会との協議及び八王子市スケートパーク施設視察(6/16)(再掲)</li> <li>・県スポーツツーリズム課と大会誘致及びオープニングイベントについて協議を(8/26、11/19)(再掲)</li> </ul>	-	-	<p>※R8年度施設オープン予定のため実績値なし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果を踏まえた施設規模および設備の検討</li> <li>・専門性や実績を踏まえた運営主体の検討</li> <li>・競技力向上及び競技人口増加に向けた事業計画の検討</li> </ul>	<p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度オープンに向け施設整備が順調に進んでいる。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛好家だけでなく、こどもを含むファミリー層等幅広い層がスポーツに親しむ機会の提供など、誘客に取り組む必要がある。</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県スポーツツーリズム課及び関係各者と連携したオープニングイベントの検討</li> <li>・レンタル事業や体験教室等の実施</li> </ul>	<p><b>1 魅力ある施設の整備に向けた協議等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理委託【4月～】</li> <li>・地域おこし協力隊等の制度を活用した人材確保【4月～】</li> <li>・運営協議会の設立【5月～】</li> </ul> <p><b>2 ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタル事業の展開や体験教室・スクールの実施【5月～】</li> <li>・全国規模等の大会開催及び誘致【5月～】</li> </ul> <p><b>3 効果的なプロモーションの検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県のスポーツツーリズム課等と連携したオープニングイベントの開催【5月～】</li> <li>・公式SNSの開設【5月～】</li> <li>・情報発信方法の検討【通年】</li> </ul>



(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】			R8計画
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
観光	20	<b>栲原町の体験型・滞在型観光の推進</b> (栲原町)  【実施主体】 ・〇(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ・栲原町 ・栲原町商工会 ・松原まろど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会  栲原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光等により、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。	主要宿泊施設宿泊者数  10,335人 (R4)	12,257人	12,500人	14,000人	<b>1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実</b> ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会と連携した体験プログラムの造成【通年】 ・運営主体、運営方法の検討【通年】 ・専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発【通年】  <b>2 誘客活動</b> ・定期的な観光情報の発信【通年】 ・「茅葺き屋根体験プラン」の造成【4月～10月】 ・太郎川公園内の雲の上ギャラリー・スイートルームを活用した誘客の検討【12月～3月】  <b>3 受入基盤の整備</b> ・太郎川公園再整備(道の駅ゆすはら・ホテル・レストラン)	<b>1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実</b> ・体験プログラム・ツアー商品の造成 林業体験(10月、2月) 絵付け体験(5月、7月) ヨガ体験(7月～12月) みどりの学習旅行(9月) ・雲の上市場食堂で栲原町産食材を使用した新メニュー7品の提供を開始(7月～)  <b>2 誘客活動</b> ・太郎川公園「森林フェスタ」開催(5/25、11/9) ・太郎川公園内へのアクティビティ施設(ファンモック)整備(8月)(高知県観光振興推進総合支援事業費補助金)→8/13～15無料開放を実施 ・大阪万博ホールサイトに「ゆすはら町茅葺き屋根プロジェクト」を掲載(4月～10月)  <b>3 受入基盤の整備</b> ・令和7年度栲原町開発振興計画審議会→太郎川公園再整備について協議：3回(6/4、7/3、12/10)	9,086人 (R7.4月～10月)  ・R7到達目標達成率：124.6% ・対前年同期比：104.4%	S	<b>(成果)</b> ・主要観光施設の入込客数は目標を上回るペースで推移している。  <b>(課題)</b> ・太郎川公園再整備計画のスケジュールに遅れが発生  <b>(今後の方向性)</b> ・SNS等を活用した情報発信の強化 ・個人旅行者の誘致と地域内消費の向上に向けた周遊促進のアプローチ ・太郎川公園再整備について、方向性を再検討	<b>1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実</b> ・体験プログラムの造成【通年】  <b>2 誘客活動</b> ・効果的な観光情報の発信【通年】 ・継続的なイベントの開催【通年】  <b>3 受入基盤の整備</b> ・太郎川公園再整備(道の駅ゆすはら・ホテル・レストラン)に向けた検討【通年】
			主要観光施設入込数 113,131人 (R4)	137,204人	125,000人	120,000人			106,425人 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：127.7% ・対前年同期比：101.6%			

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		
観光	21	<b>津野町まるごと体験！観光推進プロジェクト</b> (津野町)  【実施主体】 ・◎津野町  四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラム等津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。	主要観光施設入込数  414,146人 (R4)	387,239人	435,000人	456,000人	<b>1 観光資源を生かした魅力づくりの推進</b> ・津野町の魅力(星など)をVR技術で鑑賞・体験できるコンテンツの開発【通年】 ・四国カルストエリアの観光客に町内各地の魅力伝えるための取り組みの継続【通年】	<b>1 観光資源を生かした魅力づくりの推進</b> ・株式会社五藤光学研究所との連絡運営会議の開催：4回(4/14、6/9、8/25、9/11、10/14) ・四国カルストエリアのイベント件数：8件(4～11月) ・「つづねつね # 6」の開催にあり、体験造成における課題の解決に向けアドバイザーを依頼(県体験アドバイザー派遣事業の活用) ・主要観光施設等と連携し、ARを活用したデジタルスタンプラリーを実施(R8.3月予定) ・つづねフェス2025開催(10/25、26) →天候不良により規模を大幅に縮小 約500名の来場 ・つづねフェス開催(10～11月、4回開催 計42名参加)	325,259人 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：112.2% ・対前年同期比：101.9%	S	<b>(成果)</b> ・観光施設の入込数は順調に推移している。  【雇用創出数】5人 (R7.11月末時点)  <b>(課題)</b> ・星ふるグレイッシュTENGUの人材不足 ・宿泊施設の整備の検討が遅れている。 ・HPの多言語が遅れている。  <b>(今後の方向性)</b> ・星ふるグレイッシュTENGUの人材確保に向け、企業委託型の地域おこし協力隊を募集 ・「農村体験実習館 葉山の郷」を活用した宿泊施設の検討 ・HPの多言語化	<b>1 観光資源を生かした魅力づくりの推進</b> ・四国カルストエリアの観光客に町内各地の魅力伝えるための取り組みの継続【通年】 ・体験プログラム「つづねつね」の新規事業者の掘り起こし【通年】	
			主要宿泊施設宿泊者数  13,946人 (R4)	11,829人	14,900人	15,800人	<b>2 観光基盤の整備</b> ・人材確保に向けた県内外での人材募集及び外国人労働者の受入協議を継続【通年】 ・労働条件や福利厚生の見直し【通年】 ・簡易宿泊所等の開発検討【通年】	<b>2 観光基盤の整備</b> ・星ふるグレイッシュTENGUの人材募集 ・津野町観光案内図、英語版パンフレット「津野がらBOOK」、パンフレット「星と大地」修正・増刷 →町内の観光施設や道の駅他県内の観光協会や観光施設に配布 ・セラピーロード案内版多言語化整備工事(6月～10月) (高知県観光振興推進総合支援事業費補助金)	9,693人 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：97.6% ・対前年同期比：99.7%	B	<b>2 観光基盤の整備</b> ・人材確保に向けた県内外での人材募集及び外国人労働者の受入協議を継続(企業委託型地域おこし協力隊を含む)【通年】 ・葉山の郷の開発検討【通年】		
			観光消費額  338,000千円 (R4)	351,522千円	366,200千円	385,000千円	<b>3 戦略的な情報発信</b> ・ターゲットや目的に合わせた情報発信【通年】 ・HPの多言語化【4月～3月】 ・デジタルスタンプラリーや体験キャンペーン等による周遊促進【通年】	<b>3 戦略的な情報発信</b> ・HPやSNS、マスコミ等を通じた情報発信 →高知龍馬空港コロン看板広告設置、帯屋町広告ビジョン ・トゥクトゥク定期周遊：30回(4月) (5～6月は車両不良により未実施、7月から再開) ・ふれあい特産市でのトゥクトゥク運行(5/25) ・トゥクトゥク1台整備(6/26) ・つづねフェス2025特設サイト公開 ・津野町キラリ☆周遊ラリーVol.2開始(8/8～) (周遊促進・滞在延長支援事業費補助金の活用) ・SUPER LOCAL SHOP とさたさでの津野町観光PR実施(8/1,2)		S	<b>3 戦略的な情報発信</b> ・ターゲットや目的に合わせた情報発信【通年】 ・HPの多言語化【4月～3月】 ・デジタルスタンプラリーや体験キャンペーン等による周遊促進【通年】		
							<b>4 魅力伝える人材の育成と観光推進体制の構築</b> ・観光ガイドの育成、スキルアップ講習会の実施【通年】 ・観光に係る地域おこし協力隊の募集【通年】 ・町内の観光関連事業者間の連携【通年】 ・(一社)奥四万十高知や四国カルストエリア広域連携推進協議会との連携した取り組みの継続【通年】	<b>4 魅力伝える人材の育成と観光推進体制の構築</b> ・星ふるグレイッシュTENGUにて観光案内実施(5/3～5/6) →星ふるグレイッシュTENGUのGW入込客数：10,530人 ・四国「持続可能な観光」推進ネットワーク第10回会議(6/19) ・四国カルスト広域連携推進協議会との協議：4回(4/18、5/12、5/27、6/17) →デジタル誘客コンテンツの整備による四国カルストへの観光誘客と域内周遊の促進につなげる。(観光振興事業費補助金(全国の観光地・観光産業における観光DX推進事業)) →「四国カルストリー デジタルスタンプラリー」の開催(9/13～) ・観光推進業務の地域おこし協力隊の着任(7月) ・観光ガイド救急講習(10/18) ・森林セラピー基地中四国ブロック合同研修会(11/1,2) ・星ふるグレイッシュTENGUでの外国人材2人受け入れ(11/11)	288,047千円 (R7.4月～11月)  ・R7到達目標達成率：118.0% ・対前年同期比：99.7%		<b>4 魅力伝える人材の育成と観光推進体制の構築</b> ・観光ガイドの育成、スキルアップ講習会の実施【通年】 ・観光に係る地域おこし協力隊の募集【通年】 ・町内の観光関連事業者間の連携【通年】 ・(一社)奥四万十高知や四国カルストエリア広域連携推進協議会との連携した取り組みの継続【通年】		

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
観光	22	<p>わざわざいこう「海洋堂ホビー館 四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外</p> <p>四万十町の観光拠点として「海洋堂ホビー館四万十」のブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町の魅力ある資源を組み合わせ、周遊促進やインバウンドの誘致など、地域と連携を強化して交流人口の拡大を図る。</p>	ホビー館年間 入場客数	17,250人	3.5万人	5万人	<p><b>1 ミュージアム機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展やイベント等の開催 【2回(4月～6月、7月～11月)】</li> <li>予土線を活用した集客とPR【通年】</li> <li>オリジナルキャラクター(うまのすけっぴ等)を活用した広報【通年】</li> <li>SNS等を通じた情報発信の強化【通年】</li> <li>地域と連携した食事提供システムの検討【通年】</li> </ul> <p><b>2 関係機関と連携した集客力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リピーターの獲得を促す仕組みづくり【通年】</li> <li>地域等との連携(観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等)【通年】</li> </ul>	<p><b>1 ミュージアム機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展の実施：ジオラマ展(4/26～6/29) →期間中人数：5,608人 エヴァンゲリオン展(7/19～11/24) →期間中人数：11,317人</li> <li>ホビー館ラッピング列車(予土線)によるPRを実施中</li> <li>土佐弁キャラのカプセルトイによる県内PRを実施中</li> <li>さんしんGOによるPR(4/20)</li> <li>軽食(豚まん及びアイス)の提供開始</li> <li>高知県出身声優による館内放送(9月～)</li> </ul> <p><b>2 関係機関と連携した集客力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>展示内容の一部リニューアル(4月～)</li> <li>広報に関して各関係機関と連携(8月～) →観光協会やエヴァンゲリオン公式インフォメーションによるPR</li> <li>予土線ハロウィン列車イベント客の受入：60人</li> <li>窪川高校および韓国の全北人工知能高校の交流活動の受入 →ジオラマ教室の実施：37人</li> </ul>	<p>17,691人 (R7.4月～11月)</p> <p>・R7到達目標達成率：75.8% ・対前年同期比：128.4%</p>	C	<p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファンが多い企画展の実施により、前年同期と比較して来館者数が増えている(対前年同期比：128.4%)。</li> <li>予土線や地域の高校との連携が図られ、集客に繋がった。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等による広報不足</li> <li>魅力ある企画展の開催</li> <li>リピーターの確保</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業受入型地域おこし協力隊の配置による広報及び企画展内容の強化</li> <li>地域等の関係機関と連携した広報や集客</li> <li>企画展の開催(3月～6月及び夏休み期間予定)</li> <li>リニューアルによる集客向上やリピーターの確保</li> </ul>	<p><b>1 ミュージアム機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展やイベント等の開催 【2回(3月～6月、夏休み期間)】</li> <li>予土線を活用した集客とPR【通年】</li> <li>オリジナルキャラクター(うまのすけっぴ等)を活用した広報【通年】</li> <li>SNS等を通じた情報発信の強化【通年】</li> </ul> <p><b>2 関係機関と連携した集客力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リピーターの獲得を促す仕組みづくり【通年】</li> <li>地域等との連携(観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等)【通年】</li> </ul>	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
		項目名・実施主体	指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
観光	23	<p>～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業 (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎四万十町 ・(一社)四万十町観光協会 等</p> <p>四万十町の山・川・海の豊かな地域資源がつけあがった景観や歴史、文化等に磨きかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。</p>	施設等 利用者数 78.3万人 (R4)	72.3万人	80.1万人	82万人	<p><b>1 受入態勢の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画【通年】</li> <li>民泊の受入検討、インバウンド環境の整備【通年】</li> <li>四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成【通年】</li> </ul> <p><b>2 観光資源の造成・磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町有観光関連施設の整備・磨き上げ、自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ【通年】</li> </ul> <p><b>3 情報発信力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅等拠点との連携やSNSを活用した効果的な情報発信【通年】</li> <li>「花とみどりのまちづくり」によるPR【通年】</li> </ul>	<p><b>1 受入態勢の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あちこちたんね隊(町歩きガイド)育成事業 総会の開催：1回(8月)、ガイド勉強会の開催：1回(7月)</li> <li>町歩き・山歩きツアー等の実施 (あちこちたんね隊、遼山を守る会との連携) 植物観察ツアーの開催：4回(5月～11月)</li> <li>観光協会によるInstagramでのイベントやツアー等の情報発信 日英両言語での投稿によるインバウンド対応</li> <li>大正地域での滞在型観光推進事業の実施 →サイクリングを通じた滞在観光の方向性を検討中</li> <li>町内を周遊する移住体験ツアーの実施：2回 (8月：参加者18人、11月：参加者21人)</li> </ul> <p><b>2 観光資源の造成・磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと交流センター(キャンプ・アクティビティ施設)の基本計画策定(高知県観光振興推進総合支援事業費補助金の活用)</li> <li>着地型商品の販売 JTB高知支店によりR3～R5に造成された4商品</li> <li>町内イベントの実施：6回(4月～11月) →台地祭り(11月)においては町外のよさこいチームを招聘することで集客増</li> <li>自然と食を生かした「BBQと川遊び」体験プログラムの実施：参加者9人(8/8)</li> <li>地域の資源を生かした「あゆの火振り漁鑑賞ツアー」の実施：参加者6名(9/23)</li> </ul> <p><b>3 情報発信力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町公式note、Instagramでの情報発信 町の魅力を伝えるようなSNS運用を実施</li> <li>観光協会によるInstagramでのイベントやツアー等の情報発信 日英両言語での投稿によるインバウンド対応【再掲】</li> </ul>	52.8万人 (R7.4月～11月)	B	<p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>着地型商品の利用者の増加や地域資源を生かした体験プログラムの実施等により、施設等利用者数の増加に寄与している。</li> <li>ふるさと交流センターの基本計画策定により、地域での長期滞在や周遊につながるプランの検討が進んだ。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源の磨き上げ及びイベント・体験プログラムを通じた入込数の増加</li> <li>サイクリングに魅力的な写真スポットやコース、地域との連携の検討</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント等開催時の新規コンテンツの検討</li> <li>大正地域におけるサイクリングツアーの開催</li> <li>ふるさと交流センター実施計画の策定</li> </ul>	<p><b>1 受入態勢の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画【通年】</li> <li>四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成【通年】</li> </ul> <p><b>2 観光資源の造成・磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ【通年】</li> <li>ふるさと交流センターの整備</li> <li>観光交流拠点の施設の運用方法の検討及び実施設計策定、整備</li> </ul> <p><b>3 情報発信力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅等拠点との連携やSNSを活用した効果的な情報発信【通年】</li> </ul>
観光	24	<p>四万十町観光交流拠点施設の整備 (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎四万十町</p> <p>高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化につなげる。</p>	道の駅集客 数 40.5万人 (R4)	38.5万人	45.1万人	49.7万人	<p><b>1 受入体制の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光交流拠点の活用・運営等に関する関係団体等との協議・連携【通年】</li> <li>町内各地の花をテーマとした施設の整備や既存の取り組みの磨き上げ【通年】</li> </ul> <p><b>2 観光交流拠点施設の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施設計の策定(9月～3月)</li> </ul> <p><b>3 周遊、滞留・滞在型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅等拠点との連携による情報発信【通年】</li> <li>町内周遊観光促進事業の実施【通年】</li> </ul>	<p><b>1 受入体制の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光交流拠点の関係者間での定例会を毎月実施</li> </ul> <p><b>2 観光交流拠点施設の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定例会の意見を踏まえた実施設計の策定中(R7.6月～) →開発許可及び排水についての協議中</li> </ul> <p><b>3 周遊、滞留・滞在型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内への周遊を促す看板等の設置を検討中</li> <li>町内を周遊する移住体験ツアーの実施：2回 (8月：参加者18人、11月：参加者21人)</li> </ul>	28.9万人 (R7.4月～11月)	B	<p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定例会を通して、関係団体と連携し、観光交流拠点整備が順調に進んでいる。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な観光客誘致策の検討が必要</li> <li>観光交流拠点施設から町内周遊を促進するための更なる仕組みづくりが必要</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客誘致に向けて、定例会を通じて観光交流拠点施設の運用方法を検討</li> <li>観光交流拠点施設を始発とする町内サイクリングコースを検討</li> </ul>	<p><b>1</b></p> <p><b>2</b></p> <p><b>3</b></p>